2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

理学療法学科
3年生

学校法人こおりやま東都学園

専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内部障害学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

本講義では，内部障害の中でも主に代謝障害について，病態や治療方法などを学ぶ．また，糖尿病や腎疾患を有する患者に対しての専門職としての支援の方法を理解し，問題解決能力を身につける．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①糖尿病の病態と治療について理解する． ②糖尿病患者に対する理学療法について理解する． ③糖尿病を有する患者に対し，理学療法プログラムを考案することができる． ④腎疾患の病態と治療について理解する． ⑤腎疾患患者に対する理学療法について理解する．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】教科書を持参してください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	初回オリエンテーション 糖尿病の病態	糖尿病の病態，成因，疫学について理解する．	個人
2	糖尿病の合併症	糖尿病の急性合併症，慢性合併症について理解する．	個人
3	糖尿病の治療①	糖尿病の主要な治療について理解する．	個人
4	糖尿病の治療②	糖尿病の合併症の進行を予防するための治療について理解する．	個人
5	糖尿病の理学療法①	糖尿病患者に実施する理学療法評価について理解する．	個人
6	糖尿病の理学療法②	運動療法，生活指導を中心に，糖尿病患者に対する理学療法について理解する．	個人
7	前半部分復習	前半部分の復習を行う．	個人
8	糖尿病患者の心理と行動	糖尿病患者に特有な心理状態と行動パターンについて理解する．	個人
9	ライフステージ別糖尿病患者の課題	各ライフステージにおける糖尿病患者の課題と，対処方法，理学療法士としての関わり方を理解する．	個人
10	症例検討①	糖尿病患者の理学療法に関する症例検討を行い，実践的な介入方法について理解する．	グループ
11	症例検討②	各グループで検討した内容を発表する．	個人
12	腎臓の解剖・生理(復習)	腎臓の解剖と生体における役割を理解する．	個人
13	腎疾患の基礎	腎疾患の病態，成因，疫学について理解する． 腎疾患の主要な治療について理解する．	個人
14	腎疾患の理学療法	腎疾患患者に実施する理学療法評価を理解する． 腎疾患患者に対する理学療法を理解する．	個人
15	後半部分復習	後半部分の復習を行う．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	標準理学療法学[専門分野]　内部障害理学療法学　第3版
【参考書】	適宜紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書や配布資料を基に復習を行ってください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
疾病の障害と成り立ち	吉田 俊太郎	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

健康から疾病に至るまでの過程や回復の機序など，人間の生体反応について理解を深める.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①国家試験頻出の疾病について，その障害と成り立ちについて理解する ②主な疾病の検査法，治療法について理解する ③疾病とリハビリテーションの関係について，概要を理解する	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】 分からないことは自ら積極的に質問し解決する. 積極性を持って授業に臨むこと.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	臨床医学総論 病因論　退行変性と進行性病変	内因と外因，それぞれの主な疾病について理解する. 退行性病変と進行性病変，創傷治癒を理解する.	個人
2	臨床医学総論 循環障害　炎症と免疫	循環障害の病態，ショック状態について理解する. 炎症の病理，免疫の仕組みについて理解する.	個人
3	臨床医学総論 腫瘍　臨床検査	良性腫瘍と悪性腫瘍の代表例について理解する. 生化学的検査，生理学的検査について理解する.	個人
4	リハビリテーション医学 廃用症候群	廃用症候群の発生要因について理解する. 廃用症候群による生理学的な変化について理解する.	個人
5	リハビリテーション医学 治療理論	筋力増強の理論，運動処方について理解する. 運動負荷とリスク管理について理解する.	個人
6	臨床心理学 基礎理論　正常及び異常な心理	防衛機制，転移，記憶などの用語について理解する. 発達課題と心理的問題について理解する.	個人
7	臨床心理学 臨床心理検査法　心理療法	心理検査，知能検査，性格検査について理解する. 面接技法，心理療法について理解する.	個人
8	精神障害と臨床医学 精神障害の分類，診断と検査法	統合失調症，パーソナリティ障害等について理解する. 精神医学的症候と，診断・検査法について理解する.	個人
9	精神障害と臨床医学 治療法	薬物療法，身体療法，精神療法について理解する. 精神科リハビリテーション，社会復帰について理解する.	個人
10	神経・筋系の障害と臨床医学 末梢神経疾患	神経線維の構造を復習し，代表的な末梢神経疾患について理解する.	個人
11	神経・筋系の障害と臨床医学 筋疾患	リハビリテーションの対象となる主な筋疾患とその特徴について理解する.	個人
12	内部障害と臨床医学 血液疾患	白血球の種類，血液検査の基準値について理解する. 主な血液疾患について理解する.	個人
13	内部障害と臨床医学 膠原病・アレルギー疾患・自己免疫疾患	アレルギーの分類と各型の特徴について理解する. 主な膠原病や自己免疫疾患の特徴について理解する.	個人
14	内部障害と臨床医学 消化器疾患	消化器系の全景と消化器の役割について復習する. 主な消化器疾患の概要について理解する.	個人
15	内部障害と臨床医学 感染症	感染を引き起こす病原体や感染症の伝播経路， 主な感染症の症状について理解する.	個人

期末試験	評価方法		
なし	筆記試験	80%	
	小テスト	20%	

【教科書】	特になし
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 今までの学習内容を復習し臨むこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
看護・介護概論	星　亜矢子	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

医療・福祉の現場において、多くの専門職が連携を図り、一人ひとりが健康に暮らすことを支えるために協業している。職場において連携を図ることの多い看護・介護の専門職の役割を理解する。

【学習目標(到達目標)】

①看護・介護の専門職の歴史と役割を知り、専門職の連携を考えることができるようになる。
②人間の(暮らす・人生)を考えることができるようになる。
③医療・福祉サービスを安全に安心して利用できる環境の利用方法を考えることができるようになる。

【受講して得られる力】

チームで働く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	看護・介護概論	対人援助職にとっての出会い 看護・介護の歴史を知る	個人
2	高齢者の暮らし	1920年から1990年代の生活を理解する 後期高齢者の暮らしを理解する	個人
3	安全に生活する環境を考える	居室の整え方とベッドメーキング	個人
4	乳がん患者の周手術期看護	乳がん患者を例に、がん患者のケアについて理解する	個人
5	地域での生活環境を整える	介護支援専門員の役割と生活環境の整え方を理解する 福祉用具の利用方法を知る	個人
6	感染防止と医療における清潔とは	医療における清潔を理解する 院内・施設内感染防止の原則を理解する	個人
7	慢性呼吸器疾患の看護	慢性呼吸器疾患患者に対する看護について理解する	個人
8	チームアプローチ・いきる、いのち	多職種連携を考える。ターミナルケア・グリーフケアを知り、いきる(クラス・人生)を考える	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	特に定めない
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義内容の復習を怠らないこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法概論	高野 真一	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法や作業療法士について理解を深め、理学療法士としての資質を醸成する。

【学習目標(到達目標)】

①日常生活や作業療法士としての仕事に役立つヒント・理論を獲得する

②仕事や生活が円滑に営めるようなコツを学ぶ

【受講して得られる力】

考え抜く力

知識・理解

論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション (高野)	当科目で学ぶ内容の概要を知り、何を学ぶのかを説明できる。	個人
2	作業療法の歴史(世界・日本) (高野)	作業療法の諸外国の歴史、日本の歴史について学び、現代の作業療法士にとって何が必要とされているか説明できる。	グループ
3	作業療法の概要(WFOT/JAOT) (高野)	作業療法士法の定義、世界作業療法連盟他諸外国の定義について理解し、作業療法の社会的役割について説明できる。	グループ
4	OT治療手段　学問的基礎知識と活動と治療的価値 (高野)	作業療法で学ぶ学問的基礎知識、治療的手段としてのActivityについて学び、その細目について説明できる。	グループ
5	手の機能とSPRINT療法・自助具身障領域での作業療法概要 (高野)	手の機能についての理解とSprintの治療的価値を認識し、活動分析を通じて自助具の治療的価値を学ぶ。	グループ
6	各領域での作業療法(医療、福祉) (高野)	各領域における作業療法の実践について学び、目的と役割について説明することができる。	グループ
7	各領域での作業療法(地域、保健) (高野)	各領域における作業療法の実践について学び、目的と役割について説明することができる。	グループ
8	まとめ (高野)	事例を通じて作業療法の実践を知る。理学療法との協働について説明することができる。	グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50% レポート 50%	

【教科書】	指定しない。
【参考書】	指定しない。 講義内で随時紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	各講義毎にまとめのレポート提出を求めます。受講中から意識を持って取り組んでください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
言語療法概論	中村 くみ子	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

言語障害，高次脳機能障害，聴覚障害，摂食嚥下障害など臨床症状を理解し，言語療法や嚥下治療の概要を学ぶ．また「コミュニケーション」についてより理解し，作業療法場面への応用を学ぶ．

【学習目標(到達目標)】

①「言語」の持つ身体・生理学的特徴，個体発生上の特徴，心理的・精神的，対人

②言語障害の多様性を知る

③治療的介入についての概要を学ぶ

【受講して得られる力】

知識・理解

専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】講義には演習もありますので積極的に参加するようにしてください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	言語聴覚療法総論	言語聴覚療法概論：言語聴覚士の歴史・定義・職務・対象障害・連携	グループ
2	失語症	失語症について：症状・評価・訓練・COMの図り方	グループ
3	高次脳機能障害	高次脳機能障害について：症状・評価・訓練・関わり方	グループ
4	構音障害	構音障害について：運動性・機能性・器質性の症状，評価，COMの図り方	グループ
5	その他のコミュニケーション障害	音声障害，喉頭摘出，吃音，聴覚障害について：症状・評価・代替手段・COMの図り方	グループ
6	言語発達障害	言語発達障害について：症状・評価・訓練・COMの図り方	グループ
7	摂食・嚥下障害①	摂食・嚥下障害について：症状・評価・訓練・チームアプローチ・実習	グループ
8	摂食・嚥下障害②	摂食・嚥下障害について：症状・評価・訓練・チームアプローチ・実習	グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	特に指定しない．
【参考書】	特に指定しない．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義の際に伝えます．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
理学療法演習Ⅲ ※ 実務経験のある教員の授業科目	吉田 俊太郎 病院勤務(理学療法士)15年	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

臨床実習へ参加するにあたり，主として中枢神経疾患に対する評価技能の習得，および医療人として相応しい態度を身につける.

【学習目標(到達目標)】

① 中枢神経疾患患者に対する評価の意義・目的を理解し，説明できる.
② 中枢神経疾患患者に対する評価を適切に実施できる.
③ 評価結果を正しく判断し，妥当な解釈ができる.
④ 脳卒中の種類，病態，臨床症状，検査，治療(理学療法を含む)，およびADLへの影響について説明できる.

【受講して得られる力】
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性

【履修上の注意】必要時、実習用の服装で臨むこと.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	客観的臨床能力試験(OSCE)について	OSCEの概要，実施方法について説明する. OSCEの概要について理解し，評価内容を説明できる.	個人
2	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 ①	Brunnstrom Recovery Stage テスト法について解説する. Brunnstrom Recovery Stage テスト法の実技演習を行う.	グループ
3	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 ②	12段階式片麻痺機能テストの検査法について解説する. 12段階式片麻痺機能テストの検査法の実技演習を行う.	グループ
4	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 ③	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 まとめ	グループ
5	脈拍・血圧測定	バイタルサインを測定する目的を理解した上で脈拍・血圧の測定が適切に実施できるように実技演習を行う.	グループ
6	脳神経検査 ①	各種脳神経検査の方法を解説する. 脳神経Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅵについて実技演習を行う.	グループ
7	脳神経検査 ②	各種脳神経検査の方法を解説する. 脳神経Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ，Ⅻについて実技演習を行う.	グループ
8	感覚検査 ①	温痛覚，触圧覚の検査方法を解説する. 温痛覚，触圧覚の検査について実技演習を行う.	グループ
9	感覚検査 ②	深部感覚の検査法を解説する. 関節覚および振動覚検査について実技演習を行う.	グループ
10	マスタリングテスト	脳神経検査，感覚検査，反射検査の 習得状況の確認を行う.	グループ
11	反射検査 ①	深部腱反射，表在反射について解説する. 深部腱反射，表在反射の検査について実技演習を行う.	グループ
12	反射検査 ②	病的反射，クローヌスについて解説する. 病的反射，クローヌスの検査について実技演習を行う.	グループ
13	医療面接	医療面接の目的を理解し，適切に実施できるように 実技演習を行う.	グループ
14	運動失調検査	協調運動障害の各種検査を適切に実施できるように 実技演習を行う.	グループ
15	中枢神経疾患の評価	症例に則した検査法が選択でき，一連の評価ができるように実技演習を行う.	グループ

期末試験	実施しない	評価方法	レポート 100%

【教科書】	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版 (医学書院) ※2年次購入済 新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版) ※2年次購入済
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】『検査・測定演習』の内容を復習しておくこと.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療英会話	ロバート・ホルト * ROBERT HOLT	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

The syllabus is designed to give students exposure to medical English. Lessons will focus on a topic that will allow students to practise English as either a doctor or a patient.

【学習目標(到達目標)】

Students will be expected to use English in class.
English will be presented in a number of ways, i.e. reading, listening etc, and students will be expected to communicate in English.

【受講して得られる力】

知識・理解
コミュンケーションスキル
態度・志向性
統合的学習体験

【履修上の注意】 特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	Polio And Vaccination	Reading Comprehension – Polio. Common Vocabulary.	個人・グループ
2	A Doctor's Prescription	Reading Comprehension – Basic Prescription Understanding. Common Vocabulary.	個人・グループ
3	Barometric Pressure And Migraines	Reading Comprehension – Headaches. Common Vocabulary.	個人・グループ
4	Internal Medical Exam	Reading Comprehension – Anti-Diarrheal / Anti-Gas Medicine. Common Vocabulary.	個人・グループ
5	Colon Polyps	Reading Comprehension – Stomach and Intestinal Health. Common Vocabulary.	個人・グループ
6	Respiratory Symptoms	Reading Comprehension – Breathing Issues and SARS. Common Vocabulary.	個人・グループ
7	Diabetes	Reading Comprehension – Diabetes Nowadays. Common Vocabulary.	個人・グループ
8	Coronary Arterial Problems	Reading Comprehension – Heart issues. Common Vocabulary.	個人・グループ
9	A Single Doctor's Office Visit and Health Insurance	Reading Comprehension – US Health Care. Common Vocabulary.	個人・グループ
10	Allergic Reactions	Reading Comprehension – Hay Fever. Common Vocabulary.	個人・グループ
11	COVID-19	Reading Comprehension – COVID-19 response. Common Vocabulary.	個人・グループ
12	Heartburn And Endoscopy	Reading Comprehension – Heartburn and food. Common Vocabulary.	個人・グループ
13	Menopause	Reading Comprehension – Menopause, ladies health. Common Vocabulary.	個人・グループ
14	Carpal Tunnel Syndrome	Reading Comprehension – CTS, and RSI. Common Vocabulary.	個人・グループ
15	Sports Injuries	Reading Comprehension – Sports injuries, breaks and sprains. Common Vocabulary.	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	English For Medicine Revise Edition – T. Nishihara, M. Nishihara, C. Benom.
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 特になし

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法管理学 ※ 実務経験のある教員の授業科目		吉田俊太郎 病院勤務(理学療法士)15年			吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

多職種との連携のうえで業務を行うリハビリテーション専門職として，理学療法士に求められる管理・マネジメントについて理解を深める.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 理学療法の対象者のリスク管理・マネジメントについて理解できる. ② 理学療法に関する教育・研究・地域領域におけるリスク管理ができる. ③ 理学療法の対象となる疾患のリスク管理について説明できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	管理・マネジメントの概観	リハビリテーション業務に求められる『管理』『マネジメント』の概念と目的について理解する.	個人
2	理学療法管理学とは	理学療法の職場管理において求められる管理業務と臨床教育の基本について理解する.	個人
3	理学療法士の職業倫理	医療専門職としての理学療法士に求められる倫理観について理解する.	個人
4	組織経営とマネジメント	病院組織における運営管理体制と医療安全管理について理解する.	個人
5	人事労務管理	病院組織における人事労務管理について理解する.	個人
6	人の管理，人材育成	リハビリテーション部門における人的管理および人材育成について理解する.	個人
7	物品管理，経済管理	リハビリテーション部門における設備管理および情報管理について理解する.	個人
8	自己管理	組織の構成員としての自己管理について理解する.	個人
9	理学療法業務のマネジメント	理学療法業務の概要を理解する.	個人
10	教育の役割とシステム	教育の目的と役割及び教育評価について理解する.	個人
11	教育・研究のマネジメント	養成教育制度と卒後教育について理解する.	個人
12	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント	社会保障制度について理解する.	個人
13	疾患別理学療法マネジメント	疾患別のリスクマネジメントについて理解する.	個人
14	病期別理学療法マネジメント	病期別のリスクマネジメントについて理解する.	個人
15	地域医療連携とリハビリテーション	多職種連携および地域連携のあり方について理解する.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 80% レポート 20%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業テーマの要点を整理する(課題)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
理学療法評価学(1/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

理学療法評価における姿勢分析、動作分析、歩行分析を理解、説明ができ実施できる
分析結果の解釈、レポートの作成ができる

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①臨床で接する頻度の高い疾患の基本的な評価項目を挙げることができる ②評価結果から妥当な解釈ができる ③一連の理学療法の流れにおいて適宜記録ができる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 問題解決力 論理的思考力 統合的学習体験

【履修上の注意】実習着を着用する

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ロジックとステップ	障害構造表を用いて、理学療法評価に必要なプロセスを確認する	個人
2	理学療法評価の基本的な流れ	理学療法評価を行う際の、基本的な流れを理解する	個人
3 4	問診の方法	問診を行う際の、情報収集やコミュニケーションの取り方を理解し、実践できる	グループ
5 6	各種疾患に対する形態計測	各種疾患に対する形態計測の方法を理解し、結果の解釈ができる	グループ
7 8	各種疾患に対する関節可動域計測	各種疾患に対する関節可動域計測の方法を理解し実施できる。また、結果の解釈ができる	グループ
9 10	各種疾患に対する徒手筋力検査	各種疾患に対する徒手筋力検査の方法を理解し実施できる。また、結果の解釈ができる	グループ
11 12	各種疾患に対するリスク管理	各種疾患に対するリスク管理の方法を理解し、運動等の中止基準を設定することができる	グループ
13 14	各種疾患に対する評価項目の解釈	整形疾患、神経系疾患に対する評価の結果を理解し、解釈することができる	グループ
15 16	実技テスト	学習の習熟度を確認するための実技テストを実施する	グループ

期末試験	実施しない	評価方法	レポート 50%	実技試験 50%

【教科書】	検査・測定に関する教科書を適宜使用する。
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	基礎3科目や疾患に関する知識が必須となるため、必要に応じて自己学習をすること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
理学療法評価学(2/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

理学療法評価における姿勢分析、動作分析、歩行分析を理解、説明ができ実施できる
分析結果の解釈、レポートの作成ができる

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①姿勢分析の目的、方法、解釈をする技術を習得する ②動作分析の目的、方法、解釈をする技術を習得する ③歩行分析の目的、方法、解釈をする技術を習得する	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 問題解決力 論理的思考力 統合的学習体験

【履修上の注意】 特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1 2	各種分析の実際	姿勢、動作、歩行分析の目的・方法を理解する 各種分析の内容を解釈することができる 姿勢・動作・歩行を構成する因子を理解する	個人
3 4 5 6 7 8 9	THA後の各種分析方法	THA後の各種分析の目的・方法を理解する THA後の内容を解釈することができる THA後の各種分析結果をレポートとしてまとめることができる	個人・グループ
10 11 12 13 14 15 16	片麻痺症例の各種分析方法	片麻痺症例の目的・方法を理解する 片麻痺患者の各種分析内容を解釈することができる 片麻痺症例の各種分析結果をレポートとしてまとめることができる	個人・グループ

期末試験	実施しない	評価方法	レポート 50%	実技試験 50%

【教科書】	検査・測定に関する教科書を適宜使用する。
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	基礎3科目や疾患に関する知識が必須となるため、必要に応じて自己学習をすること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法評価学(3/3) ※ 実務経験のある教員の授業科目		安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務			安中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

臨床実習に向けてケーススタディを行い，理学療法を実施するにあたっての系統的評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程の基本的流れを把握する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①症例報告書の作成方法ができる. ②整形外科，中枢神経疾患の典型的症例のレポートが妥当な時間で作成できる. ③作成する過程の中で，評価から統合と解釈，考察するまでの臨床思考ができる .	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力 問題解決力

【履修上の注意】 わからないことは自ら質問し解決してください。積極性をもって臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ケーススタディ①	ケース提示	個人
2	評価項目の立案	ケースに対する評価項目の立案ができる	個人
3	評価項目の立案	ケースに対する評価項目の立案ができる	個人
4	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる	個人
5	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる	個人
6	検査・測定実技演習	模擬患者を設定し、立案した評価項目に関して実技演習を行う	個人
7	検査・測定実技演習	模擬患者を設定し、立案した評価項目に関して実技演習を行う	個人
8	レポート作成	報告書の作成	個人
9	ケーススタディ②	ケース提示	個人
10	評価項目の立案	ケースに対する評価項目の立案ができる	個人
11	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる	個人
12	統合と解釈	評価項目の結果を踏まえ統合と解釈ができる	個人
13	治療プログラムの立案	評価から導かれる治療プログラムについて立案できる	個人
14	検査・測定実技演習	模擬患者を設定し、立案した評価項目に関して実技演習を行う	個人
15	レポート作成	報告書の作成	個人

期末試験	後期期末試験	評価方法	レポート 50%	実技試験 50%

【教科書】	検査・測定に関する教科書を適宜使用する。
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 基礎3科目や疾患に関する知識が必須となるため、必要に応じて自己学習をすること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
義肢装具学演習 ※ 実務経験のある教員の授業科目		佐久間　朋子 病院（理学療法士）14年勤務			佐久間
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

義肢装具のチェックアウト、異常歩行について再確認する。短下肢装具の採型や義肢装具士によるソケット等の作製の行程を見学して製法や留意点などを学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①各種義肢装具の名称、基本構造、特徴、用途を示すことが出来る ②義肢装具のチェックアウトと異常歩行の原因を推察できる ③義肢装具使用者に対する理学療法評価を実施できる ④義肢装具の採型について理解できる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 統合的学習体験

【履修上の注意】	教科書を持参して下さい

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	短下肢装具のチェックアウト	短下肢装具のチェックアウトについて理解する 短下肢装具のチェックアウトについて実施・体験する	グループ
2	短下肢装具のチェックアウト		グループ
3	長下肢装具のチェックアウト	長下肢装具のチェックアウトについて理解する 長下肢装具のチェックアウトについて実施・体験する	グループ
4	長下肢装具のチェックアウト		グループ
5	義肢装具の採型	プラスチック式短下肢装具の採型について理解する プラスチック式短下肢装具の採型について実施・体験する	グループ
6	義肢装具の採型		グループ
7	下肢切断の理学療法評価	下肢切断の評価について理解する 下肢切断の評価について実施・体験する	グループ
8	継手の確認	大腿義足・下腿義足の継手の機能について理解する 模擬義足を用い、義足歩行を体験する	グループ
9	義肢のチェックアウト	大腿義足・下腿義足のチェックアウトについて理解する 大腿義足・下腿義足のチェックアウトの実施ができる	グループ
10	アライメント調整と異常歩行	ベンチアライメントについて理解する ベンチアライメントの調整ができる	グループ
11	アライメント調整と異常歩行	義足の異常歩行について理解する 義足の異常歩行について問題点を抽出できる	グループ
12	下肢切断者に対する理学療法	下肢切断者に対する理学療法について理解する 下肢切断者に対する理学療法について実施・体験する	グループ
13	義肢の作製見学・体験	切断者に対する義肢の作製を見学する 切断者に対する義肢の作製を体験する	グループ
14	義肢の作製見学・体験		グループ
15	まとめ	まとめ	グループ
期末試験	筆記試験	評価方法：筆記試験　100%	

【教科書】	PTOTビジュアルテキスト　義肢装具学 第2版 （羊土社）
【参考書】	義肢装具のチェックポイント　第9版 （医学書院）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書・配布資料の内容をしっかり復習してください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
物理療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		白土　貴紀 病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務			白土
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えることによって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①理学療法における物理療法の意義を理解する	知識・理解
②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③物理療法の適応を理解する	態度・志向性
④物理療法のリスク(注意・禁忌事項)を理解する	論理的思考力

【履修上の注意】生理学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	物理療法の基礎	物理療法の定義，歴史，リハビリテーションにおける物理療法の役割，位置づけ，今後の課題について理解できる	個人
2	温熱療法の概要	物理療法に必要な基礎的理論として熱，温熱療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解できる	個人
3	温熱療法各論(ホットパック，パラフィン)	表在性温熱療法の代表として，ホットパック，パラフィン浴について実施方法を学び，実施できる	個人
4	エネルギー変換療法の概要	エネルギー変換療法の種類，分類，生理学的効果，適応と禁忌について理解する	個人
5	極超短波・超短波療法	極超短波治療器，超短波治療器の具体的な実施方法について学び，実施できる	個人
6	寒冷療法	寒冷療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解できる	個人
7	電気刺激療法の概要	電気刺激療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解できる	個人
8	電気刺激療法	電気刺激療法の具体的な実施方法について学び，実施できる	個人
9	TENS総論，各論	国家試験問題による演習を通して，TENSへの理解を深めることができる	個人
10	超音波療法	超音波療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解できる	個人
11	超音波療法	超音波療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解できる	個人
12	振動刺激療法	振動刺激療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解し，具体的な実施方法について学び，実施できる	個人
13	圧迫療法・マッサージ療法	圧迫療法・マッサージ療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解できる	個人
14	光線療法	光線療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解し，具体的な実施方法について学び，実施できる	個人
15	牽引療法	牽引療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解し，具体的な実施方法について学び，実施できる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% レポート 20%

【教科書】	シンプル理学療法学シリーズ　物理療法学テキスト　第2版(南江堂)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】呼吸・循環系や神経・筋，代謝等に関する生理学の復習を十分にしておいてください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
物理療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	白土　貴紀 病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務	白土

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えることによって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①理学療法における物理療法の意義を理解する ②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する ③物理療法の適応を理解する ④物理療法のリスク(注意・禁忌事項)を理解する	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 態度・志向性 論理的思考力

【履修上の注意】生理学をしっかり復習した上で臨んでください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	物理療法の概要の復習	物理療法の定義，歴史，リハビリテーションにおける物理療法の役割，位置づけ，今後の課題について、復習する	個人
2	機器の使用方法・注意点の復習	物理療法に必要な基礎的理論として熱，温熱療法の種類，生理学的効果，適応と禁忌について理解し、復習する	個人
3	グループワーク	グループに分かれ， ・ホットパック・パラフィン ・極超短波 ・寒冷療法 ・TENS,EMS ・超音波 ・振動刺激量販 以上の実習を通して,物理療法学の基礎知識をもとに各種物理療法の具体的な実施方法について実施し,効果について計測できる. ただ単に，機器を使用するのではなく，グループで話し合う，調べる，協業するなど，主体的に取り組みを行うことで，コミュニケーション能力，他者理解，考える力を身につける. 疑似治療部位を露出させやすい服装で授業に臨むこと.	グループ
4	グループワーク		グループ
5	グループワーク		グループ
6	グループワーク		グループ
7	グループワーク		グループ
8	グループワーク		グループ
9	グループワーク		グループ
10	グループワーク		グループ
11	グループワーク		グループ
12	グループワーク		グループ
13	グループワーク		グループ
14	グループワーク		グループ
15	まとめ	実習にておこなった物理療法の実施方法,効果についてレポートにまとめる。	グループ

期末試験	評価方法		
実施しない	筆記試験	80%	
	レポート	20%	

【教科書】	シンプル理学療法学シリーズ　物理療法学テキスト　第2版(南江堂)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1・2年次の運動学と解剖学の復習をしてください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
神経系理学療法学Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務	増子

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し,臨床現場で行われているアプローチ方法や評価方法について実技を通して学ぶ.

【学習目標(到達目標)】

① 中枢神経疾患について理解を深める.
② 臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する.
③ 各種アプローチ,評価方法を実際に体験することにより理解を深める.

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
知識・理解
問題解決力
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	脊髄損傷について	脊髄の機能解剖や脊髄損傷の原因を理解する	グループ
2	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷の症状や合併症を理解できる 脊髄損傷の評価方法を理解できる	グループ
3	外傷性脳損傷について	外傷性脳損傷の原因,症状を理解する 外傷性脳損傷の評価方法を理解できる	グループ
4	運動失調の理学療法	運動失調の原因,症状を理解する 運動失調の理学療法評価,治療方法を理解できる	グループ
5	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の原因,症状を理解する	グループ
6	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の評価・治療方法を理解できる	グループ
7	多発性硬化症,筋萎縮性側索硬化症の理学療法	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価,治療方法を理解できる	グループ
8	中枢神経疾患に対する評価	中枢神経疾患の評価方法を理解する	グループ
9	病期による理学療法の役割	急性期・回復期・生活期における理学療法の目的を理解する	グループ
10	中枢神経疾患に対する治療計画と予後	中枢神経疾患の想定される予後を理解する 予後を想定し適切な治療計画立案を行う	グループ
11	高次脳機能障害	高次脳機能障害について理解,説明できる 高次運動障害(失行等)の評価方法を理解できる	グループ
12	高次脳機能障害	高次脳機能障害について理解,説明できる 高次感覚障害(失認等)の評価方法を理解できる	グループ
13	高次脳機能障害	高次脳機能障害について理解,説明できる その他高次脳機能障害の評価方法を理解できる	グループ
14	精神・認知機能の評価	精神・認知機能の評価を理解,説明できる 精神・認知機能の評価方法を理解できる	グループ
15	疼痛に対する評価	疼痛の定義や分類について理解,説明できる 脳卒中後の疼痛について評価方法を理解できる	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学　第3版 (医学書院) 脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編] (金原出版)
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 検査測定の方法を十分に復習し,授業の望みましょう.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
神経系理学療法学Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務			増子
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し,臨床現場で行われているアプローチ方法や評価方法について実技を通して学ぶ.

【学習目標(到達目標)】

① 中枢神経疾患について理解を深める.
② 臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する.
③ 各種アプローチ,評価方法を実際に体験することにより理解を深める.

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
知識・理解
問題解決力
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ADL,セルフケア等の評価	Barthel Index(BI),機能的自立度評価法(FIM),modified Rankin scale(mRS)について理解する	グループ
2	ADL,セルフケア等の評価	Barthel Index(BI),機能的自立度評価法(FIM),modified Rankin scale(mRS)について実施する	グループ
3	運動機能の評価	ブルーンストロームの片麻痺回復段階指標,上田式片麻痺機能テスト,SARAについて理解する	グループ
4	運動機能の評価	ブルーンストロームの片麻痺回復段階指標,上田式片麻痺機能テスト,SARAについて実施する	グループ
5	バランスの評価	機能的バランス指標(BBS),Time up and go test (TUG),Burke Lateropulsion Scale(BLS)を理解する	グループ
6	バランスの評価	機能的バランス指標(BBS),Time up and go test (TUG),Burke Lateropulsion Scale(BLS)を実施する	グループ
7	総合的身体機能の評価	脳卒中機能障害評価セット(SIAS)を理解,実施する	グループ
8	総合的身体機能の評価	脳卒中機能障害評価セット(SIAS)を理解,実施する Fugl-Meyer Assessment(FMA)を理解,実施する	グループ
9	歩行の評価	10m最大歩行速度,6分間歩行テスト,歩行の評価について理解,実施する	グループ
10	歩行の評価	10m最大歩行速度,6分間歩行テスト,歩行評価について理解,実施する 評価結果から問題点や予測を立てる	グループ
11	体幹機能の評価	体幹機能の評価(TCT,FACT)を理解,実施する	グループ
12	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療方法を理解する 治療方法の概要を理解することができる	グループ
13	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療方法を理解する 治療方法の概要を理解することができる	グループ
14	脳画像と臨床症状	脳画像を把握する目的を理解する 各種脳画像の特徴を説明できる	グループ
15	脳画像と臨床症状	脳画像における各種伝導路を理解する 臨床症状と脳画像から病態像を理解できる	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版 (医学書院) 脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編] (金原出版)
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 検査測定の方法を十分に復習し,授業の望みましょう.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
筋骨格系理学療法(1/3) ※実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院(理学療法士)14年勤務	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。
本講義は講義形式と演習形式が含まれる。

【学習目標(到達目標)】

①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深めることができる
②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解できる
③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行うことができる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性
論理的思考力

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	組織再生・修復	骨格筋・腱組織・人体組織の構造を理解し、組織の炎症について理解し説明できる	個人
2		骨・神経の治癒過程を理解し説明できる	個人
3	骨折と脱臼	骨折と脱臼の定義と病態について理解する また治療や評価について理解し説明できる	個人
4	上肢骨折の病態、評価・治療	上肢骨折の分類・リハビリテーションプログラムについて理解する	個人
5		上肢骨折に関する評価内容を理解し実施できる	個人
6		上肢骨折に関する治療内容を理解し実施できる	個人
7		上肢骨折に関する日常生活動作を理解し練習できる	個人
8	下肢骨折の病態、評価・治療	下肢骨折の分類・リハビリテーションプログラムについて理解する	個人
9		下肢骨折に関する評価内容を理解し実施できる	個人
10		下肢骨折に関する治療内容を理解し実施できる	個人
11		下肢骨折に関する日常生活動作を理解し練習できる	個人
12	変形性股関節症	変形性股関節症の病態、基本的な治療、目的について理解する	個人
13		基本的な評価と治療手技が実践できる	個人
14		評価の結果を記録し、解釈ができる	個人
15		評価の結果の統合と解釈ができる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	運動器障害理学療法学(MEDICAL VIEW)
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1・2年時の運動学、解剖学、整形外科学の復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
筋骨格系理学療法(2/3) ※実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院(理学療法士)14年勤務	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。
本講義は講義形式と演習形式が含まれる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深めることができる ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解できる ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行うことができる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 態度・志向性 論理的思考力

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	変形性膝関節症	変形性膝関節症の病態、基本的な治療、目的について理解する	個人
2		基本的な評価と治療手技が実践できる	個人
3		評価の結果を記録し、解釈ができる	個人
4		評価の結果の統合と解釈ができる	個人
5	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷の発生機序や病態、について理解できる	個人
6		膝関節半月板損傷に関する評価・治療を理解し実施できる	個人
7	肩関節疾患の病態	肩関節の構造と機能、肩関節周囲炎の病態が理解できる	個人
8		腱板断裂の病態が理解できる	個人
9	肩関節疾患の評価・治療	肩関節疾患に関する整形外科的テストを理解し実施できる	個人
10		肩関節疾患に対する治療アプローチを理解し実施できる	個人
11	足部・足関節疾患の病態	足部機能、足部・足関節疾患の病態を理解する	個人
12		足部・足関節に関する骨折の病態を理解する	個人
13	足部・足関節疾患の評価・治療	足部・足関節疾患に関する評価方法を理解し実施できる	個人
14		足部・足関節疾患に関する治療方法を理解し実施できる	個人
15	前期筋骨格系理学療法学のまとめ	前期の筋骨格系理学療法学のまとめを行う	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	運動器障害理学療法学(MEDICAL VIEW)
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1・2年時の運動学、解剖学、整形外科学の復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
筋骨格系理学療法(3/3) ※実務経験のある教員の授業科目	十文字　雄一 病院(理学療法士)7年、在宅(理学療法士)7年勤務	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	45(90)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる。

【学習目標(到達目標)】

①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深めることができる
②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解できる
③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行うことができる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
態度・志向性
論理的思考力

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	腰部解剖	脊椎手術と対応する理学療法について理解し、術所見読解のポイントがわかる	個人
2		腰痛の評価から治療を選択でき、実施できる 各種検査、運動療法、ストレッチング、姿勢矯正運動	個人
3	腰部疾患	頸部痛を伴う疾患についてその病態が理解できる 各種検査、運動療法、ストレッチング、姿勢矯正運動	個人
4		体幹・脊椎疾患の治療法についてまとめる	個人
5	頸椎・胸椎解剖	膝関節損傷の発生機序と病態、整形外科的治療について理解できる ACL損傷、PCL損傷、MCL損傷、半月板損傷	個人
6		膝関節固有の障害に対する評価ができる	個人
7	頸椎・胸椎疾患	膝関節固有の障害に対する治療ができる	個人
8		関節リウマチについて病態、一般的な整形外科的、内科的治療が理解できる	個人
9	関節リウマチ	愛護的な評価、治療が行える	個人
10		各運動器疾患の評価ができるようになる	個人
11	整形外科的テスト	整形外科的テストの意義、目的を理解し、適切に実施することができる	グループ
12			
13	症例検討	運動器障害を有する患者の動作から仮説を立て、評価項目を列挙できる	個人
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%	

【教科書】	運動器障害理学療法学(MEDICAL VIEW)
【参考書】	標準整形外科学 第14版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	1・2年時の運動学、解剖学、整形外科学の復習		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
小児発達系理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	笹島　美沙希 障がい児入所施設・重症児通所支援事業所（理学療法士）6年	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

小児理学療法における代表的な疾患，障害の特徴，理学療法の考え方について，講義および実技演習を通して理解する．

【学習目標（到達目標）】
①大人と比較した小児疾患の特徴および障害像について理解し，説明できる．
②発達検査や理学療法評価をマニュアルに従って実施できる．
③正常運動発達を理解し，発達障害児に対する理学療法プログラムを考案できる．

【受講して得られる力】
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
問題解決力
考え抜く力
チームで働く力

【履修上の注意】 特になし

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	初回オリエンテーション	理学療法の対象となる疾患について復習する． 小児理学療法における基本的な考え方を理解する．	個人
2	正常運動発達の復習	新生児期から歩行獲得までの運動発達過程を復習する．	個人
3	原始反射，姿勢反応の復習①	脊髄レベルの反射および反応について復習する．	個人
4	原始反射，姿勢反応の復習②	中脳～大脳皮質レベルの反射および反応について 復習する．	個人
5	発達と生活機能の評価	小児領域で行う各種検査と理学療法評価について学ぶ． ケーススタディを通して実践し，評価方法を理解する．	個人
6	脳性麻痺総論	脳性麻痺の疫学，症状，治療法について理解する． 脳性麻痺の理学療法の目標について理解する．	個人
7	脳性麻痺（痙直型両麻痺）	痙直型両麻痺の特徴および治療法について理解する． 痙直型両麻痺の理学療法について理解する．	個人
8	脳性麻痺（痙直型片麻痺）	痙直型片麻痺の特徴および治療法について理解する． 痙直型片麻痺の理学療法について理解する．	個人
9	脳性麻痺（アテトーゼ型）	アテトーゼ型の特徴および治療法について理解する． アテトーゼ型の理学療法について理解する．	個人
10	重症心身障害児	重症心身障害児の障害像について理解する． ポジショニング，呼吸理学療法について理解する．	個人
11	筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症の障害像について理解する． 筋ジストロフィー症の理学療法について理解する．	個人
12	二分脊椎	二分脊椎の障害像について理解する． 二分脊椎の理学療法について理解する．	個人
13	知的障害およびその他の発達障害 ダウン症候群	発達障害の特徴と理学療法士の関わり方を理解する． ダウン症候群の理学療法について理解する．	個人
14	ハイリスク新生児	ハイリスク新生児と周産期医療の特徴を理解する． NICUにおける理学療法について理解する．	個人
15	まとめ	小児理学療法における代表的な疾患，障害の特徴， 理学療法の考え方について，講義内容の総復習を行う．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	小児理学療法学テキスト　改訂第4版　シンプル理学療法シリーズ（南江堂）
【参考書】	講義の中で適宜紹介します．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 教科書と授業で使用した資料を基に予習・復習を行ってください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
呼吸・循環器系理学療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 教科書を持参してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	呼吸理学療法とは	呼吸理学療法の概要を理解する. 呼吸器疾患の現状を知り、理学療法の必要性を認識する	個人
2	胸部の観察・評価	胸部の解剖を理解しその観察と評価のポイントを知る	個人
3	呼吸困難・運動耐容能の評価	呼吸困難の評価、運動耐容能の評価方法を理解し、評価できる	個人
4	慢性閉塞性肺疾患(COPD)病態理解	慢性閉塞性肺疾患の肺の病態について理解する	個人
5	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の評価	肺機能や呼吸困難の重症度、運動耐容能の低下要因の評価を行える	個人
6	慢性閉塞性肺疾患(COPD)のリハビリテーション	呼吸機能低下、運動耐容能低下の要因に対するリハビリテーションプログラムを理解する	個人
7	間質性肺炎の病態理解と評価およびリハビリテーション	間質性肺炎の病態と経過、予後を考慮した運動療法について理解する	個人
8	外科手術後の急性呼吸不全に対する評価およびリハビリテーション	手術侵襲、内部環境の把握、リスク管理を把握したうえで段階的に早期離床を進める重要性を理解する	個人
9	外科手術後の急性呼吸不全に対する評価およびリハビリテーション	呼吸練習、体位変換など具体的な術後早期リハビリテーションについて理解する	個人
10	肺炎・ARDSの病態理解と評価およびリハビリテーション	肺炎の病態と肺胞換気が低下するメカニズム、各種検査を理解し早期離床のための介入方法を理解する	個人
11	気管支喘息の病態理解と評価およびリハビリテーション	気管支喘息の病態とそのコントロール、運動療法時の注意点を理解した上での介入方法を理解する	個人
12	呼吸理学療法評価・治療実技演習	胸部の観察・評価、呼吸困難の評価について演習を行う	グループ
13		呼吸理学療法の代表的な介入方法について演習を行う	グループ
14	吸痰演習	吸痰手技の実施の方法、注意点について理解し、演習を行う	グループ
15	まとめ	呼吸理学療法のまとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版
【参考書】	適宜紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	内臓の解剖学・生理学・運動学の復習をして講義に臨むこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
呼吸・循環器系理学療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①循環器の構造・機能について説明できる ②循環器疾患のメカニズムについて説明できる ③循環器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる	知識・理解 専門職としてのスキル・意識

【履修上の注意】教科書を持参してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	循環器の基礎①	循環器系の解剖、生理を理解する 心臓リハビリテーションに必要な基礎知識を整理する	個人
2			個人
3	循環器の基礎②	心電図・不整脈の診かたについて、課題を実施し心電図への理解を深める	個人
4			個人
5	循環器疾患に対する評価	運動耐容能とその評価について理解する	個人
6	循環器疾患の病態・検査と治療	虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症などの 循環器疾患の病態と検査・治療について理解する	個人
7			個人
8			個人
9	虚血性心疾患に対する理学療法	ケーススタディをし、評価計画・解釈・治療プランの 立案を実施する	個人
10			個人
11	リスク管理(救急救命について)	呼吸・循環器疾患におけるリスク管理について学び，救急救命法についての理解を深める	グループ
12			グループ
13			グループ
14	心大血管術後の理学療法	心大血管術後のリスク管理と理学療法について理解する	個人
15	まとめ	まとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版
【参考書】	適宜紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	内臓の解剖学・生理学・運動学の復習をして講義に臨むこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
日常生活技術演習 ※ 実務経験のある教員の授業科目	吉田 俊太郎 病院勤務(理学療法士)15年	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

対象者の生活像を把握し、効果的な援助・指導を行うために、基本動作および移乗動作の方法を身につける。各種疾患を想定したり、対象者を想定した日常生活動作の指導方法や介助方法を身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①基本動作の・移乗動作の指導や介助のポイントを列挙できる.	問題解決力
②対象者を想定した基本動作・移乗動作の指導や介助を行うことができる.	知識・理解
③各種疾患に応じた日常生活動作の介助や指導を行うことができる.	情報活用能力
	考え抜く力
	チームで働く力

【履修上の注意】 授業に適した服装で受講するようにしましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	介助方法と指導の基本 起き上がり動作・立ち上がり動作	起き上がり・立ち上がり動作の介助方法を学び、実践する. 対象者を想定した方法を実践する.	グループ
2	介助方法と指導の基本 移乗動作	車椅子とベッド間の移乗動作の介助方法を学び、実践する. 対象者を想定した方法を実践する.	グループ
3	指導と介助方法の基本 床上動作	膝立ち,床からの立ち上がり動作の介助方法を学び実践する. 対象者を想定した方法を実践する.	グループ
4	指導と介助方法の基本 その他	四つ這い,膝歩きなど介助方法を学び、実践する.	グループ
5	疾患に応じた指導と介助 脳卒中	脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する. 起居・移乗・移動の介助について演習を行う.	グループ
6	疾患に応じた指導と介助 脳卒中	脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する. 更衣・排泄・入浴の介助について演習を行う.	グループ
7	疾患に応じた指導と介助 脳卒中	脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する. 食事・整容・その他の介助について演習を行う.	グループ
8	疾患に応じた指導と介助 脊髄損傷	脊髄損傷患者の介助方法と指導方法を理解する. 起居・移乗・移動の介助について演習を行う.	グループ
9	疾患に応じた指導と介助 脊髄損傷	脊髄損傷患者の介助方法と指導方法を理解する. 更衣・排泄・入浴・その他の介助について演習を行う.	グループ
10	疾患に応じた指導と介助 パーキンソン病	パーキンソン病患者のADL動作の特徴を理解する. 代表的なADL動作の介助について演習を行う.	グループ
11	疾患に応じた指導と介助 神経筋疾患	神経筋疾患患者のADL動作の特徴を理解する. 代表的なADL動作の介助について演習を行う.	グループ
12	疾患に応じた指導と介助 呼吸器疾患・心疾患	呼吸器疾患・心疾患患者のADL動作の特徴を理解する. 代表的なADL動作の介助について演習を行う.	グループ
13	疾患に応じた指導と介助 下肢骨折	下肢骨折患者のADL動作の特徴を理解する. 代表的なADL動作の介助について演習を行う.	グループ
14	疾患に応じた指導と介助 人工関節全置換術	人工関節全置換術後患者のADL動作の特徴を理解する. 代表的なADL動作の介助について演習を行う.	グループ
15	実技試験	各種介助方法について到達度を確認する.	グループ

期末試験		評価方法		
	筆記試験		筆記試験	60%
	実技試験		実技試験	40%

【教科書】	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版 ※2年次購入済 脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編] ※2年次購入済
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 基礎科目の知識を活用しますので、不足している部分については十分復習しましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
スポーツ理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	樫村　孝憲 病院（理学療法士）14年勤務	樫村

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

対象者の健全なスポーツへの取り組みをサポートするために、メディカルサポートとトレーニングサポートの現状、競技特性や障害発生メカニズムを理解する

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①スポーツ理学療法のかかわりについて説明できる ②各競技特性を理解し、理学療法士の関わり方について自分の考えを説明できる ③各種疾患に対する評価、治療項目を理解、説明できる	知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力 態度・志向性

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	スポーツ理学療法の概要	スポーツと理学療法の関わりについて説明できる。	個人
2	メディカルチェック	基本的なメディカルチェックとその意義を理解する。	個人
3 4 5	フットワークの実際	生理運動やactive stretching、フットワークを理解し、トレーニング中で応用して考え、実践することが出来る。	個人
6 7	肩関節のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における肩関節のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。	個人
8 9	膝関節のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における膝関節のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。	個人
10 11	足関節のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における足関節のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。	個人
12 13	腰部のスポーツ障害・傷害	スポーツ現場における腰部のスポーツ傷害について理解でき、説明ができるようにする。	個人
14 15	テーピング	テーピングの効果について理解する ACL損傷、足関節内反捻挫に対するテーピングの巻き方を理解し実施できる	グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	特になし
【参考書】	標準整形外科学 第15版(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	1・2年時の解剖学、運動学、整形外科学の復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内部障害理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	安中 聡一 病院(理学療法士)8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

前期の内部障害学に続き，各種内部障害に対する支援の方法を理解する．また，それぞれの疾患について症例検討を行い，問題解決能力を身につける．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 腎臓,泌尿器の解剖学的構造を理解し説明できる． ② 腎臓,泌尿器の生理学的機能を理解し説明できる． ③ 各種疾患の症候について説明できる． ④ 各種疾患の検査と治療について説明できる．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】教科書を持参してください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	初回オリエンテーション 前期の内容の復習①	前期実施した糖尿病の理学療法について復習を行う．	個人
2	前期の内容の復習②	前期実施した腎疾患の理学療法について復習を行う．	個人
3	栄養とリハビリテーション①	リハビリテーションにおける栄養管理の目的を理解する．	個人
4	栄養とリハビリテーション②	サルコペニアの原因と，予防方法および治療方法を理解する．	個人
5	栄養とリハビリテーション③	各種疾患に対する栄養状態の評価方法を理解する．	個人
6	栄養とリハビリテーション④	症例を通して，栄養管理および理学療法の実践的な方法を理解する．	個人
7	がん患者に対する理学療法①	がんの病態，成因，疫学について理解する．	個人
8	がん患者に対する理学療法②	がんの主要な治療について理解する．	個人
9	がん患者に対する理学療法③	がん患者に生じる弊害について理解し，理学療法を実施する際のリスク管理を実践できる．	個人
10	がん患者に対する理学療法④	がん患者に対する理学療法評価，治療プログラムを理解する．	グループ
11	高齢者に対する理学療法①	加齢に伴う生体の変化について理解する．	個人
12	高齢者に対する理学療法②	ロコモティブシンドロームの定義と，予防を中心とした介入方法を理解する．	個人
13	高齢者に対する理学療法③	フレイルの定義と，予防を中心とした介入方法を理解する．	個人
14	高齢者に対する理学療法④	高齢者に対する理学療法評価，治療プログラムを理解する．	個人
15	総復習	後期実施した内容について総復習を行う．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	標準理学療法学[専門分野] 内部障害理学療法学 第3版
【参考書】	適宜紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書や配布資料を基に復習を行ってください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
地域理学療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務	増子

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

地域における理学療法の役割を理解するため,医療・保健・介護分野における地域リハビリテーションの概念と支援体制について学ぶ.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 地域リハビリテーションの考え方について説明できる. ② 地域リハビリテーションの支援体制について説明できる. ③ 地域における理学療法士の役割について説明できる. ④ 介護予防における理学療法士の役割について説明できる. ⑤ 地域の防災と災害支援におけるリハビリテーション専門職の役割について説明できる.	知識・理解

【履修上の注意】教科書や配布資料を必ず持参して臨むようにしましょう.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	地域リハビリテーションについて	地域リハビリテーションの考え方や役割を学ぶ 地域リハビリテーションの考え方や役割を説明できる	個人
2	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムを学ぶ 地域包括ケアシステムの制度を説明できる	個人
3	関係制度と関連法規	各種保険制度の仕組みについて学ぶ 各種保険制度の概要について説明できる	個人
4	地域におけるリスクマネジメント	リスクマネジメントの概要と必要な知識や技術を学ぶ リスクマネジメントの考え方や知識・技術について説明できる	個人
5	介護予防	サルコペニアを学び、概要や介護予防について説明できる フレイルを学び、概要や介護予防について説明できる	個人
6	認知症予防	認知症を学び、認知症予防の運動プログラムを学ぶ 認知症予防のプログラムを説明できる	個人
7	転倒予防	転倒予防の重要性と対策方法を学ぶ 転倒予防の重要性と対策方法を説明できる	個人
8	訪問リハビリテーション	訪問リハの概要と理学療法士の役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる	個人
9	通所リハビリテーション	通所リハの概要と理学療法士の役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる	個人
10	施設系(入所)リハビリテーション	施設系リハの概要と理学療法士の役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる	個人
11	終末期における理学療法	終末期の概要と役割を学ぶ 理学療法士の役割と介入方法を説明できる	個人
12	行政における療法士の役割	理学療法士等が従事している分野と役割を学ぶ 理学療法士従事している分野と役割を説明できる	個人
13	地域防災と災害支援	災害時のチーム医療を学ぶ リハビリテーション専門職の役割を説明できる	個人
14	地域での起業と社会貢献	理学療法士が起業する目的や役割を学ぶ 企業の目的と必要なステップについて説明できる	個人
15	事例 検討	事例を通して地域での理学療法士の役割を理解できる	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50%	受講態度 10%
			小テスト 40%	

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	講義内にて紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業のテーマごとに教科書を読んでおくこと.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者 免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習の修了者			吉田
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	(180)	実習	4

【授業の概要・目的】

学内で学んだ基礎・専門基礎・専門分野の知識・技術を総合的に適用し対象者を理解するために，臨床の場面で理学療法評価および治療を体験，実践する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 対象者・スタッフと適切なコミュニケーションを取り，良好な人間関係を構築できる.	コミュンケーションスキル
② 診療チームの一員としての自覚を持ち，責任のある言動をとることができる.	チームで働く力
③ 臨床における対象者の評価やアプローチの内容と意義について説明できる.	情報活用能力
④ 実習指導者の直接監視下で水準Ⅰの理学療法(記録を含む)が実施できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤ 自己学習の成果をポートフォリオとしてまとめ，報告することができる.	考え抜く力

【履修上の注意】 適宜ルーブリック評価を行い，自己の達成状況(学習成果)を明確にする. 毎週末，進捗状況を報告する.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	医療施設及び医療介護施設での臨床実習	臨床実習指導者の下，臨床実習を行う. ・実際の医療行為の枠外において，患者協力の下，評価や治療の体験を行う. ・検査測定や治療の記録は，対象者の状態を踏まえて模擬的に実施した旨を記載する. ・理学療法の一連の業務や役割について学ぶ. ・関連職種の人々との連携について学ぶ.	個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験	実施しない	評価方法	課題の達成度 60%	OSCE 30%
			発表会の結果 10%	

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 日々の内省事項から課題解決に向け自己学習し，ポートフォリオとしてまとめる.

【本講義に関しての質問先】 担当教員 【質問方法】 メール連絡

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
在宅リハビリテーション実習 ※ 実務経験のある教員の授業科目	臨床実習指導者 免許を受けた後5年以上業務に従事し指定講習の修了者	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	3	後期	(45)	実習	1

【授業の概要・目的】

地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの役割，およびリハビリテーションマネジメントについて学ぶ.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 地域包括ケアシステムの概要および生活期リハビリテーションの意義を説明できる.	コミュンケーションスキル
② 理学療法士の役割について説明できる.	チームで働く力
③ 対象者の評価やアプローチの内容と意義について説明できる.	情報活用能力
④ 対象者の予後予測の重要性について説明できる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
⑤ 自己学習の成果をポートフォリオとしてまとめ，報告することができる.	考え抜く力

【履修上の注意】 適宜ルーブリック評価を行い，自己の達成状況(学習成果)を明確にする.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	訪問，あるいは通所介護施設での 在宅リハビリテーション実習	在宅における対象者のリハビリテーションに参加する. ・地域包括ケアシステム，および生活期リハビリテーション(医療と介護の違い)について学ぶ. ・理学療法士の役割について学ぶ. ・理学療法士の一連の業務の流れ(マネジメント)について学ぶ. ・記録の方法と実際について学ぶ.	個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験	実施しない	評価方法	課題の達成度 90%	発表会の結果 10%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 日々の内省事項から課題解決に向け自己学習し，ポートフォリオとしてまとめる.

【本講義に関しての質問先】 担当教員 【質問方法】 メール連絡